



地域医療というチャレンジ



雲南市立病院  
地域ケア科部長  
太田 龍一先生

「島根の地域医療にチャレンジしましょう！」  
毎回、雲南市立病院に実習、研修に来る学生、研修医の方にこう伝えてあります。私自身、大阪で育ち、沖縄県で研修医として働きました。その後、沖縄県の離島診療所で地域医療の素晴らしさを実感しました。縁があり、4年前から島根県で総合診療医として働いております。地域医療／総合診療には夢があります！  
複数の疾患に対して包括的に対応し、病院・診療所・在宅などの多様な場で働くことができる。そして住民の方々・多職種の方々と共に地域全体を健康にできる。病気だけでなく地域を健康にできる専門です。このような専門は他にありませんし、島根県はその最先端地域になりうる場所だと思います。是非、学生、研修医の方々にも地域における総合診療を経験していただき、地域で医師として働く楽しさやその仕事の重要

性を実感していただきたいと思っております。  
雲南市立病院で地域ケア科という科を立ち上げ、チャレンジを続けております。総合診療を中心とした地域医療を展開できるような仕組み作りと医学生、研修医の方々がチャレンジできる土壌を作っております！  
総合診療のど真ん中、経験してみませんか？  
皆さんのチャレンジをお待ちしております。



雲南市立病院  
〒699-1221  
島根県雲南市大東町飯田96-1  
TEL：0854-47-7500【代表】

交流会が開催されました

大田市交流会



出雲市内  
令和元年7月11日(木)19:00～  
参加者：23名(学生8名)

津和野町交流会



津和野町内  
令和元年8月21日(水)18:00～  
参加者：16名(学生4名)

安来市交流会



安来市内  
令和元年8月25日(日)18:30～  
参加者：30名(学生3名)

今後の予定

第6回ランチョンセミナー

令和元年10月1日(火)12:15～12:45  
島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンス1  
講師：島根大学医学部集中治療部  
助教 片山 望先生

第6回地域医療セミナー

令和元年10月25日(金)18:00～19:30  
島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンス1  
講師：気仙沼市立本吉病院  
院長 齋藤 稔哲先生

ワークライフバランスセミナー

令和元年11月8日(金)18:00～19:30  
島根大学医学部みらい棟4階 ギャラクシー  
講師：秋田大学大学院医学系研究科・医学部  
公衆衛生学講座  
教授 野村 恭子先生

総合診療専攻医の集い

令和元年11月23日(土・祝)開催予定

第7回ランチョンセミナー

令和元年11月25日(月)12:15～12:45  
島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンス1  
講師：内科学講座(内科学第二)  
教授 石原 俊治先生

総合診療ワークショップ

令和元年11月開催予定

第8回ランチョンセミナー

令和元年12月10日(火)12:15～12:45  
島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンス1  
講師：島根大学医学部泌尿器科学講座  
准教授 安本 博晃先生

第7回地域医療セミナー

令和元年12月11日(水)18:00～19:30  
島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンス1  
講師：松江市立病院  
副看護局長／老人看護専門看護師  
吉岡 佐知子先生

共催参加予定

地域医療を守り育てる住民活動 in おおち

令和元年11月23日(土・祝)13:00～17:00  
いこいの村しまね  
テーマ：島根の医療現状を知り、明日から自分にできることを考える  
講演：島根大学地域医療支援学講座 教授 佐野千晶

島根県医師事務作業補助者研修会

令和元年11月30日(土)11:00～17:00  
島根大学医学部附属病院ゼブラ棟2階  
カンファレンスルーム「だんだん」  
講師：浜松医科大学附属病院 医療福祉センター  
特任教授 小林 利彦先生



編集後記

コスモスが秋風にやさしく揺れる季節を迎えました。新体制での地域医療支援学講座も半年が過ぎ、様々な活動にご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。これから深まる秋と共に冷気が入ります。どうぞご自愛を下さい。

島根大学医学部 地域医療支援学講座  
<https://www.communityshimane.jp/>



We Love  
ちいさ

島根大学と地域のかけ橋へ



夏季地域医療実習報告会



Contents

活動報告

セミナー報告

リレートーク第29回  
地域医療というチャレンジ  
雲南市立病院 地域ケア科部長  
太田 龍一先生

医学教育FD

date 令和元年 6月28日(金) 18:00~19:30

[場所] 講義棟1階 国際交流ラウンジ
[参加者] 17名
[基調講演]
「医学教育分野別評価と地域医療教育—多様なニーズに対応できる柔軟な医師育成—」
自治医科大学 地域医療学センター 総合診療部門 地域医療学センター長 / 教授 松村 正巳 先生



自治医科大学が展開されている医学教育・総合医療学の実施等について、また分野別認証評価にあたっての取り組みについてお話を頂いた。また、医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)では、社会における医療の実践として、地域医療の貢献に重点が置かれている。地域医療の背景から多様なニーズに対応するマインドを涵養するカリキュラムの構築の在り方をお話いただき、本学の分野別国際認証受審への知見を得た。

第17回総合診療ワークショップ

date 令和元年 6月29日(土) 14:00~17:00

[場所] みらい棟2階 共通カンファレンス1
[テーマ] 地域で働くこととEBM 生涯学習とその向こう
[講師]
総合診療学講座 講師 大田総合医療学センター 木島 庸貴 先生
浜田国民健康保険診療所 上野 伸行 先生



EBMにおける基本的な流れを理解するために、提示された事例を通して、4つのステップ(疑問の定式化、情報収集、情報の批判的吟味、情報の患者適応)に分けて、学習が進められた。PICOの作成やPCを活用し様々な情報源にあたる等、ペアで話し合い、グループでディスカッションし理解を深めていく方法がとられた。データベースの具体的な活用方法等実践的であり、物事を批判的に吟味する思考を学べた有意義なワークショップであった。

第1回 女性医師と医学部学生の「えんネット交流会」

date 令和元年 7月5日(金) 18:00~19:00

[場所] みらい棟2階 共通カンファレンス1
[参加者] 女性医師5名、学生3名(女子2名、男子1名)



医師の働き方改革に関するミニレクチャーがあり、議論が交わされた。女性医師は妊娠・出産・育児などのライフイベントと医師としてのキャリア形成の時期が重なる。参加者からは、自身がどのようにバックアップ制度を活用しキャリアを積んできたのか語られ、様々な助言とともに情報交換がなされた。

また、今回初めて男子学生の参加があり、将来同僚として一緒に働く女性医師の問題を身近に考える場になったようにも思われる。

令和元年度ブラッシュアップ講習会(プライマリケア連合学会島根県支部学術集会)

date 令和元年 7月21日(日) 10:00~12:00

[場所] 講義棟1階 国際交流ラウンジ
[講演] 「高血圧治療ガイドライン2019」 島根大学医学部内科学講座(内科学第四) 教授 田邊 一明 先生
「総合診療医の診療アプローチ」 山口大学医学部附属病院 総合診療部 准教授 齋藤 裕之 先生



第1部講演会は、「高血圧治療ガイドライン2019」をテーマとして、田邊一明先生にJSH2014やAHA/ACC2017との違いを含めた最新の治療と高血圧管理の向上に向けた取り組み、今後の展望についてお話し頂いた。第2部講演会は、「総合診療医の診療アプローチ」と題して、齋藤裕之先生の経験された症例をもとに、患者を総合的に診る専門性とアプローチについてお話し頂いた。参加された医学生や先生方から多数の質問があった。

date 令和元年 7月21日(日) 13:30~16:30

総合診療医プログラム説明会

[場所] 講義棟1階 国際交流ラウンジ
[講演] 「総合診療総論」 山口大学医学部附属病院 総合診療部 准教授 齋藤 裕之 先生



地域医療支援学講座では総合診療医育成ネットワーク事業の事務局を担っている。この取り組みの一環で総合診療医プログラム説明会を開催した。第1部の講演会は齋藤裕之先生に「総合診療総論」のテーマで、症例をもとにお話し頂いた。第2部は、総合診療医ネットワークの7つの病院のプログラムをポスター展示し、各病院の担当者によって詳細が説明された。参加した初期研修医・医学生も興味深く聴講し、質問・意見交換がなされた。

date 令和元年 8月23日(金) 11:00~14:15

夏季地域医療実習意見交換会

[場所] 講義棟1階 国際交流ラウンジ



県内の保健所及び医療機関に協力を頂き、夏季地域医療体験実習を行った。最終日の4日目は「実習で印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「島根の地域医療の改善策」について意見を出し合い、ワールドカフェ形式で3回のラウンドを行った。

各圏域が抱える課題や取り組みなど、大学(自治医科大学・鳥取大学・島根大学)や学年の垣根を越えて情報の共有をはかり島根の地域医療について活発な意見交換がなされた。

セミナー報告

地域医療セミナー

離島医療のすすめ

[実施日] 令和元年 6月21日(金) 18:00~19:00
[場所] 講義棟1階 国際交流ラウンジ
[講師] 隠岐病院診療部長、地域連携部長、島の医療人育成センター長 加藤 一朗 先生
[参加者] 21名



[概要] 加藤先生は、漫画「コウノドリ」17巻離島医療編のモデルである。セミナーを通して参加者の離島医療のイメージがプラスに転化することを期待するというメッセージから始まった講話は、最初に学生が挙げていたマイナスイメージを大きく払拭するものだった。内容は、離島医療に必要な人材育成の取組みや本土への救急搬送を含む症例の紹介、またそのような緊急時のアセスメントを要する問題の出現、そして、隠岐島ならではの生活を通しての楽しみ・喜び等、多彩であった。先生からは我々の反応を見て「ここは笑いどころ」と突っ込みが入り、笑い且つ学ぶという展開の中で、人材を育成することの意味やチーム医療の重要性など多くのことを学んだ。

地域包括ケアと在宅医療 ~新しい医学の創造~

[実施日] 令和元年 7月12日(金) 18:00~19:30
[場所] みらい棟2階 共通カンファレンス1
[講師] 東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 所長 平原 佐斗司 先生
[参加者] 11名



[概要] 地域包括ケア時代の在宅医療を、歴史をひも解きながら、日本が迎える超高齢多死社会におけるエンドオブライフについて話を伺い、ケアリングの神髄を学んだ。最期の時を在宅で過ごしたご本人及びご遺族のメッセージは、その医療を受けた満足感で溢れていた。改めて「尊敬ある死とは何か、グリーフケアとは何か」を考えさせられ、そこに携わる医療職が本人の生き方をどう支えていけば良いのか、その質が問われていることがわかった。先生の様々な先進的な取り組みから、暮しの場の医療が転換期を迎える中で、多職種と連携しながらどうシステムを構築していくのか、その在り方と地域医療をどう支えていくのか医療職として姿勢やマインドを授かった。

地域医療・感染症セミナー

感染症を取り巻く日本と世界の状況なぜ今、感染症が注目されるのか

[実施日] 令和元年 9月6日(金) 18:00~19:30
[場所] みらい棟4階 ギャラクシー
[講師] 東京医科歯科大学附属病院 感染制御部 副部長 波田野 義郎 先生
ケースプレゼンター: 島根県立中央病院 麻酔科 藤原 辰也 先生
[参加者] 計45名



[概要] 羽田野先生からすでに昼間特別講義を受けた医学科4年生を含む多くの学生や他院の医師の参加があった。「トップランナーの感染症外来診療術」「抗菌ドリル」の編者である羽田野先生の人気の高さがうかがわれた。前半で、ケースプレゼンターの藤原先生により肺炎球菌による重症肺炎の症例が報告された。学生たちにも分かりやすく聞いかけながら進められた。波田野先生には症例報告のアドバイザーとして、フロアの学生や医師等らとドクターG張りのディスカッションを通してご指導頂いた。学生からは、コモンな感染症症例について学びが深まったと好評であった。

ランチョンセミナー

[実施日] 令和元年 6月26日(水) 12:15~12:45
[場所] みらい棟2階 共通カンファレンス1
[講師] 島根大学医学部 放射線医学講座 放射線科 助教 吉田 理佳 先生
[参加者] 17名



[概要] 先生のきびきびとした歯切れのよい言葉が耳に心地よく、明朗闊達なお人柄が表れ、テンポの良さに魅了された。前半は先生のキャリアから専門医や学位の取得等について話され、情報の提供と同時に「決めるのはあなたです」と、常に意思決定は自分であることを強調して下さった事が印象に残った。また、学生達が聞きたくても聞けない収入・支出に関するmoney・tax情報や愛犬とのプライベートな時間等、医師の日常を知ることができた。後半は、放射線科の魅力やPRされ、最後はドラマ「ラジエーションハウス」張りの島大放射線科医師陣による医局ポスター紹介でしめられた。将来は放射線科という選択に心を動かされた学生も少なくなかったように思われる。

[実施日] 令和元年 7月9日(火) 12:15~12:45
[場所] みらい棟2階 共通カンファレンス1
[講師] 島根大学医学部 内科学講座 肝臓内科学 内科学 飛田 博史 先生
[参加者] 15名



[概要] ソフトな声の飛田先生は、マイク1本をもって学生一人一人に問い掛けながら話された。印象に残ったメッセージは、人との出会いを大切にすること、その出会いは自分自身を高めることに繋がるというものだった。それは、尊敬する先生との出会い、キャリアを積まれた先々での出会い、そしてプライベートでの運命的な出会いに裏打ちされたものだった。また、ご専門の領域では、C型肝炎の治療が内服薬選択の時代に入り、ウイルスの排除率も95%以上で治る疾病になったこと、これからは非アルコール性脂肪肝炎等の生活習慣関連肝疾患に対し、他科と連携した臓器横断的診療活動が主流となってくることを聞き、治療の動向を知ることができた。

[実施日] 令和元年 9月10日(火) 12:15~12:45
[場所] みらい棟2階 共通カンファレンス1
[講師] 島根大学医学部 救急医学講座 准教授 瀧波 慶和 先生
[参加者] 19名



[概要] 先生は教員を経験されてから、社会人で医師を志され、当時は学士入学制度がなくセンター試験を受けて医学科に入学されたそうである。いろいろな土地で学び働き、キャリアを積み、その多様性から先生のお人柄や魅力が垣間見えるお話し振りだった。セミナーは、症例が提示され救急の鉄則を交えたクエスチョン形式で進められた。救急の医療現場は、1分1秒が生死を分ける中で、救急医でありながら総合医のような知識と判断力が求められる。現場ではあってはならないヒューマンエラーを、提示されるクエスチョンと共に体感しながら、3要因とそれを防ぐための対策「①思い込み(確認する)、②錯覚(よく見る)、③なれ(Break down 繰り返し)」を学んだ。